

博物館名：青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸
事業名：博学連携による時世次世代育成プロジェクト
実施期間：2023年6月1日（木）～2024年2月29日（木）



活動Ⅰ 活動名：「ご当地「C（Sea：海）」級グルメの開発プロジェクト」



活動Ⅱ 活動名：「地域社会と自然環境との関係性から学ぶ「地域学習とSDGs」



活動Ⅲ 活動名：「縄文時代の藻塩づくりとむつ湾の食文化」



活動Ⅳ 活動名：「アマモによる紙づくり体験活動」

【事業の内容・目的】

- 青森市地区では、2022年から青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸を中心に「あおもり駅前ビーチ」をフィールドとして活動する市内の五つの博物館と青森市教育委員会が参画した青森「海の学び」博物館連携活動プロジェクト運営協議会を組織化し、地域の次世代を担う子ども達に地域・郷土について学ぶ機会の創出を目的に活動している。
- 本プロジェクト運営協議会の活動として、「青森市教育委員会」協力の下、本格的な活動とあわせて地域の産官民が連動するイベント「青森港400年」へ参画し、学校教育現場との連携により、地域の次世代を担う若者が中心となって活動できる場を創出する。
- 4つの活動プログラムの実施を通して、「海の学び」をテーマに自治体と地域の博物館が連動・協働し、特に学校と博物館との連携を活発化する事で、学校教育における地域学習の一環として、地域の資源でもある自然環境と社会環境、歴史と現状を学ぶ機会を創出するために、博物館がサポート役を担い、今後の博学連携活動の継続と更なる展開と、地域の次世代を担う若者の人材育成を大きな目的の一つとして実施する。

活動の様子

1. ご当地「C（Sea：海）級グルメ」の開発プロジェクト

～博学連携から生まれる若い世代への海洋リテラシー普及～

【開催日時】2024年1月12日（金）・2月19日（月）・2月29日（木）

【開催場所】青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸

【参加者数】51人

【活動内容・目的】

2025年度青森では「青森港400年」を迎えることから、産官民が連携した記念行事が開催される。その記念事業の核として「みなとオアシス「C（Sea：海）級グルメ」全国大会 in 青森」を2025年度中に青森ウォーターフロント活性化協議会が誘致し、青森ベイエリア内での実施を予定している。（みなとオアシスあおもりの運営団体：青森ウォーターフロント活性化協議会）そこで、地域の人々に馴染みやすい「食」をテーマにして、地域に根差した青森市オリジナルの「海の食」グルメの開発を行う。



ホタテ生姜みそおでん



むつ湾カレー



ホタテ入りつくね



たこ焼き風ホタテ焼



ホタテの稚貝酒蒸し

① プロジェクトの活動計画

STEP 1：活動に関連する事前学習としての講義受講と「さわれる」アウトリーチ補助教材の展示と解説

STEP 2：参加する学生を中心とした参画メンバーによるグループディスカッション及び発表

STEP 3：「C（Sea：海）級グルメ」の開発

② プロジェクトの活動計画の中止や内容変更

STEP 1：専門家による講義と地域の水産物のレプリカと料理レプリカの展示・解説の実施

→青森市オリジナルの「海の食」グルメの開発を行うにあたり、青森市に関わりが薄い外部講師による講義でむつ湾について知るよりも、常日頃から青森市で生活を営んでいる方々からの意見を聞き、開発にも参画してもらう事のほうが、地域の人々に馴染みやすいグルメの開発をできるのではないかという思いで中止とした。また、地域の水産物のレプリカと料理レプリカの展示・解説についても、常日頃から青森市で生活を営んでいる者にとっては、よく解っていることから中止とした。

STEP 2：学生を中心とした参画メンバーによるグループディスカッションと発表

→STEP 1 を中止としたことで、STEP 2 も中止にした。

STEP 3：「C（Sea：海）級グルメ」の開発

→開発にあたり、常日頃から青森市で生活を営んでおり、港湾やむつ湾に精通している「みなとまち・あおもり誕生400年実行委員会」の委員や青森ウォーターフロント活性化協議会の委員の方々が中心となり、開発に向けて3回の意見交換会と試食会を行った。開発メンバーには、青森市内でむつ湾ホタテなどの地魚の料理を提供している飲食店経営者も含まれている。

【参加者の声】

○回答内容 A Sea 級グルメの開発にあたり、青森市（むつ湾）の代表的な魚介類である「ホタテ」を食材にする予定が、2023年度記録的な高水温が続いたことから、ホタテの稚貝を中心に大量に死んでいることが判明。来年度以降の水揚げの減少が懸念されていることから、2025年度のSea 級グルメに影響を及ぼす可能性があり、地球温暖化などの環境問題について、考えさせる活動になった。

○回答内容 B 当初、飲食店経営者（プロ）に開発の殆どを任せる予定であったが、常日頃から青森市で生活を営んでいる方々のアイディアも良かった。

2. 地域社会と自然環境との関係性から学ぶ「地域学習とSDGs」

～地域学習から生まれる文化財や自然環境に対する保護意識の醸成～

【開催日時】2023年8月19日（土）

【開催場所】青森市油川地区

【参加者数】8人（青森大学料理研究サークルメンバー5名、青森大学教授（サークル顧問3名））

【活動内容・目的】

- 青森市油川地区の又八沼に生息する魚「シナイモツゴ」は、絶滅が危惧されている日本固有種の淡水魚であり、生息する沼とともに「青森市指定文化財」となっている。しかし近年、又八沼では近縁種で交雑が可能なモツゴが混入していることが判明し、シナイモツゴの絶滅する可能性があることから、モツゴを駆除しシナイモツゴの生息環境の改善を図った。駆除されたモツゴは廃棄物として処分されるが、SDGsの観点から廃棄物の有効活用や廃棄物削減を目的に、モツゴを食材として検討し、実際に調理・実食を行った。
- 駆除したムツゴは、その日のうちに「モツゴ南蛮漬け」に調理され、モツゴの駆除作業に携わったスタッフ等にふるまい好評であった。食用に使用しなかった残りのモツゴについては、来年度に肥料として活用するために、乾燥・粉碎し冷凍保存した

又八沼の水抜き作業



シナイモツゴとモツゴの仕分作業





- 自治体と協力することで、普段は関わることのできない駆除作業ができた。
- 海洋教育一辺倒の活動ではなく、学校現場のニーズも加味したテーマで実施することができた。
- 博物館が中心となり、地域社会が協力しながら問題・課題に対する対策等を自らが考え行動する体験的な学びの機会を創出することができた。
- 「海洋教育」を通して、わたし達のくらしと海との関わりを知り、ひいては「海からの恩恵」とともに「自然環境」保全に対して、「自分事」として捉える広い視野と意識を持ち、行動できる若い世代を育成することができた。
- 市教育委員会との協力体制の継続と地域の「海の学び」活動を推進する博物館連携の強化に繋げることができた。

【参加者の声】

- 回答内容A 駆除したモツゴの生息数に比べ、シナイモツゴの少なさに驚いた。
- 回答内容B 駆除したモツゴは、沼に生息する淡水魚の独特な臭みもなく、美味しく食べられた。

3. 縄文時代の藻塩づくりとむつ湾の食文化

～古からつづく「海と人」との関係性について学ぶ「藻塩づくり体験」～

【開催日時】2023年7月20日（木）・8月29日（火）

【開催場所】縄文の学び舎・小牧野館、あおもり駅前ビーチ

【参加者数】7月20日：34人

8月29日：34人 計 68人

【活動内容・目的】

- 既存の博学連携学習プログラムの継続と学校向け学習プログラムとしての定番化を目指すことを目的に、2022（R4）年度に実施した「海の学び」活動の中で、学校現場及び青森市教育委員会からの評価の高かった学習プログラムを継続実施した。

●7月20日

- ・縄文の学び舎・小牧野館及び国史跡「小牧野遺跡」の施設見学
- ・藻塩づくりに向けた「縄文土器づくり」

●8月29日

- ・藻塩づくり体験
- ・世界遺産北海道北東北の縄文遺跡群「三内丸山遺跡」の施設見学
- ・カヤック体験
- ・藻塩の試食会

縄文の学び舎・小牧野館及び国史跡「小牧野遺跡」施設見学会



藻塩づくりに向けた「縄文土器づくり」



藻塩づくり体験



世界遺産北海道北東北の縄文遺跡群「三内丸山遺跡」の施設見学



カヤック体験



藻塩の試食会



※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

- 海開き前に駆除される合浦公園海水浴場のアマモを有効活用することができたことによって、不要な廃棄物を減らすことができ、SDGs の意識が高めることができた。
- 地域の次世代を担う若者への「海洋リテラシー」普及の機会を創出することができた。
- 「海洋教育」を通してわたし達のくらしと海との関わりを知り、ひいては「海からの恩恵」とともに「自然環境」保全に対して、「自分事」として捉える広い視野と意識を持ち、行動できる若い世代を育成することができた。

【参加者の声】

- 回答内容A 海は大切なんだと思った。海にポイ捨てをしたり、ゴミを捨てないで常にきれいになるよう心掛けたい。
- 回答内容B カヤック体験をして感じたことは、楽しかったけれども、ところどころにゴミが落ちていたので、海を守りたい。ゴミをゼロしたいと感じた。
- 回答内容C 今回の活動で海を大事にしていきたいと改めて思いました。

4. アマモによる紙づくり体験活動

～海洋漂着海藻の再利用を考える（SDGs）～

【開催日時】2024年1月8日（月）

【開催場所】青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸

【参加者数】小学生等：6人

父兄：6人 計 12人

【活動内容・目的】

- 2022（R4）年度の青森「海の学び」博物館連携活動プロジェクト運営協議会における活動成果として作成した「アマモによる紙づくりのマニュアル」を増刷・活用し、SDGsを意識しながら学ぶことができる学校団体向けのモデル事業として、海岸に漂着され駆除されるアマモを有効活用し、アマモから紙を作る体験活動を行った。

アマモによる紙づくり体験



青森県のむつ湾では、夏になるとたくさんのアマモの枯葉が浜に漂着します。それは回収されて「ゴミ」として捨てられます。

そこで、SDGsに理解を深めてもらうため、「アマモテラスの紙」と一緒にみんなで漂着したアマモを使って「紙」をつくってみよう！

アマモ紙 作り方ナビゲーター

紙のみぞ知る未来っちゃん



SDGsとは、「持続可能な開発目標」のことっちゃん。簡単に言うと「今だけではなく、ずっと続けていくことができる」

ということっちゃん。

みんなも自然環境や資源を大切に守りながら利用していけるように普段から何ができるのか考えてみてはどうっちゃん？

アマモテラスの紙

アマモ紙を作る段階で突然生まれた神。
アマモ紙の未来を司る全てを知っている。
アマモも未来は・・・。



海の中のアマモ

この茶色いのが枯れて漂着したアマモっちゃん！



- 学校向けの体験学習プログラムとすることで、博学連携活動を意識した【青森「海の学び」博物館連携活動プロジェクト運営協議会】の活動をアピールし、今後における学校教育現場との更なる展開に繋げることができた。
- 「海洋教育」を通してわたし達のくらしと海との関わりを知り、ひいては「海からの恩恵」とともに「自然環境」保全に対して、「自分事」として捉える広い視野と意識を持ち、行動できる若い世代を育成する一助に繋げることができた。

【参加者の声】

- 回答内容A アマモのやくわりや海のたいせつさが分かった。
- 回答内容B アマモは、海をきれいにしてくれて、魚などの住かにもなっているという事を学ぶことができて、アマモのおかげで、海がきれいになっていることを感じることもできたので、よかったです。また、アマモで紙を作りたいです。
- 回答内容C 海にゴミとかがあると、かんきょうがわるくなるということを知って、また、アマモはいろいろな役わりをしていることを知りました。

【事業全体のまとめ】

- ・青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸を中心に発足した青森「海の学び」博物館連携活動プロジェクト運営協議会の、本格的なスタートから2年目を迎え、これまで以上に博学連携を強化し、青森市教育委員会の協力を得ながら、学校の教育現場に対して「海の学び」活動の機会と場を提供することができた。
- ・地域市民、特に地域の次世代を担う子ども達や若い世代に対して、海をテーマにした生涯学習の推進を目的に、学校等の教育現場を介し、特に対象を児童、学生、若い世代とする事で地域社会を取り巻く状況・情勢を博物館ならではの視点から、正しい知識を楽しみながら知ってもらい、学んでもらう機会を創出することができた。
- ・当該協議会の活動を活発化する事で、青森市ならではの「博物館連携」及び「博学連携」のモデルケースを構築し、今後における学校と博物館との継続的な活動を目指すことができた。

主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 青森市教育委員会	・「地域資源や文化財を生かした食と海」の駆除されたムツゴの食材としての活用の検討 ・その他活動の補助 ・参加者（小学校）へのアプローチ
2. 青森県営浅虫水族館	・「地域資源や文化財を生かした食と海」の地域の水産物のレプリカと「ご当地グルメ」、「郷土料理」、「学校給食」の料理レプリカの展示・解説 ※当初計画した活動内容の中止により、連携できなかった。
3. 青森市森林博物館	・「縄文時代の藻塩づくりとむつ湾の食文化」の「土器づくり」講師
4. あおもり北のまほろば歴史館	・「縄文時代の藻塩づくりとむつ湾の食文化」の活動サポート
5. 縄文の学び舎・小牧野館	・「縄文時代の藻塩づくりとむつ湾の食文化」の「土器づくり」講師
6. TEAM CISELA	・「縄文時代の藻塩づくりとむつ湾の食文化」の活動サポート
7. 青森ウォーターフロント活性化協議会	・「ご当地「C（Sea：海）級グルメ」の開発
8. みなとまち・あおもり誕生400年実行委員会	・「ご当地「C（Sea：海）級グルメ」の開発
9. 青森大学	・「地域社会と自然環境との関係性から学ぶ「地域学習とSDGs」」の調理支援

主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 無し	
2.	
3.	
4.	
5.	

以上